

平成28年度 新潟市総合学習部 活動報告

部長 小林 厚司（新潟市立東山の下小学校）

1 研究主題

主題 「子どもが自ら探究する総合的な学習の時間の創造」
副題 ～子どもに確かな力を付けるための評価の在り方（3年次）～

2 研究の概要

研究主題は、『平成27・28年度新潟市の学校教育の重点』に示されている「付けたい力の明確化」を図ることと、『新潟市の授業づくり』に示されている「ねらいと評価の一体化」を総合的な学習の時間で具体化することを意図したものである。

総合的な学習の時間においては、これまでは、どのような力を付けるべきであるのかが不明確なまま学習活動が構成されたり、それを評価する計画が形式的なものに留まっていたりする傾向があった。そこで、昨年度は2年次の研究として、指導と評価の一体化を目指し、指導案において指導計画と評価計画をどのように関連付けながら作成していくかを部員で確認した。そして、今年度は、昨年度の研究で得られたことを基盤に実践的な場面での評価方法について研究することとした。

3 研究の実際

○研究授業 第6学年「めざせ！大形防災マスター」授業者 教諭 佐藤 環（大形小学校）
地域の防災の現状や水害に備えたまちづくりの取組を調査し、自分のできることを探る活動を通して、防災意識と地域の一員としての自覚を高める姿を目指す単元である。

大形小学校区は海拔が低く、水害が起きやすい地域であることを知った子どもは、水害への備えの必要性を感じ、「自助」「共助」という観点から防災についての探究活動を続けてきた。そして、防災パンフレットを作成し、家庭や地域に発信しようと考えた。

本時は、そのパンフレットを精査する場面であった。区役所の防災担当者から防災意識がより高まるようなパンフレットの工夫についてアドバイスをいただいた。それを基に、「家庭で話し合うきっかけをつくるには」「各地域や家庭、状況に合ったものにするには」という2つの視点でパンフレットを見直した。子どもは、ペアで「チェックリスト」「クイズ形式」「書き込み欄」などの工夫を見付け、パンフレットに生かそうと考えた。

授業では、既成のパンフレットの工夫探しが中心的な活動になっていた。協議会では、学習課題の「防災意識が高まるパンフレットにするにはどうしたらよいか」の妥当性が話題になった。授業者は、評価の目的を「防災意識を高める方法を理解し、次時の活動に見通しをもつことを確認する」と考えたが、達成評価とレディネス評価のどちらに重点を置くかにより、中心的活動が変わってくる。それについて授業を通して確認し合うことができ、子どもの主体的活動のための評価の在り方を考えていく上で、価値ある実践となった。

指導者から、評価の充実に向けて新学習指導要領改訂の3つの視点からお話いただいた。総合的な学習の時間が大切にしてきた「何ができるようになるか」という視点はもちろん、今後は、「何を学ぶか」という視点での各教科と関連付けた評価の在り方や「どのように学ぶか」という視点で、子どもにさせたい思考を想定した学習活動や評価を考えていくことが重要であることをご指導いただいた。

4 成果と課題

公開授業の指導案を基に評価の目的や方法について部員同士でアイデアを出し合う場をもったり、笹山小学校の青木博子校長先生からパフォーマンス評価を演習形式で学ぶ学習会をしていただいたりして、評価について実践的に学ぶことができた。

今後は、子どもの主体的活動を促す評価の在り方を考えることに加えて、新しい時代に必要となる資質能力や子どもが自らの学び方をメタ認知することを取り入れていく。また、カリキュラムマネジメントによる各教科との関連などを視点に、今後も実践的な学習評価を考えていく。

